

第4幕



登ってごらん 大汝峰を



百姓池と大汝峰



大汝峰頂上の大汝神社

大汝峰

白山に行き頂上を目指す場合、足は自然と御前峰に向かう。白山の頂上=御前峰というのが一般的なイメージであろう。大賑わいの御前峰に比べれば、一緒に並んでいる大汝峰がちょっと可哀そう。

今回の PW 参加のメンバーも御前峰は何度も登っているが、隣の大汝峰への回数は少ない。…ということで、今回のメンバー



(大汝峰頂上から) ミドリヶ池 剣ヶ峰 御前峰

の足は自然と大汝峰方向に向かう。

登ってみて感じたな。大汝峰って、良いじゃないか。頂上の大汝神社に静かに頭をたれ、人影も少ない広い頂上で、展望を堪能。

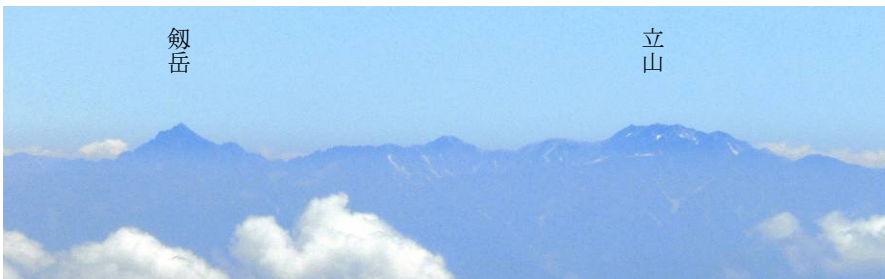
大汝に登ればこそ見ることができる絶景もある。それは上の写真の風景だ。

第5幕



堪能してごらん 北アルプス遠望を

大汝峰に向かって、最後の詰めをしている時に、山村さんが後を振り返って、「オー」と歓声を上げた。北アルプスの遠望が見えたのだ。



劔岳

立山

ご来光の折、北アルプスは雲の下であった。今日は見えるとは思っていなかった。まさに突然の出会いだ。

乗鞍 御岳も見えたぞ

北アルプスの遠望の更に右方向に、乗鞍岳、御岳も見ることができた。



槍ヶ岳

大キレット

穂高連峰

第6幕

登ってごらん 別山に

第二日目の行動は自由ワンデリング。結果的には、3 グループに分かれての行動 (2 頁『行程概略』参照)。

その一つが、別山往復だ。メンバーは島林さんのみ。単独行だ。今シーズン既に白山登山を実行し、御前峰方面を歩いたとのことで、今回は、別山を選んだようだ。

彼の感想によれば、『別山最高!』とのことで、別山の虜になった模様だ。



天池の日の出



御手洗池と別山

別山平は一面のニコウキスゲ



特別寄稿

若い頃は奨学金で今は年金で山登り

今回も白山南竜 PW は、ほぼ平均 70 歳の高齢者ばかり。でも元気だよ。そう年寄り扱いをするなよ。

俺達も半世紀前は若かった。金大ワングル部所属。勉強もほどほどに、クラブ活動に熱中。日本育英会の貴重な奨学金を教科書代・参考書代ではなく、そのほとんどを山行き資金に投じてしまった輩だ。

サラリーマン時代は山も忘れ、心身を削りながら厳しい仕事とお酒に専念。ただ幸いなことに、定年退職時には、身体を壊していなかったこと、借金をしていなかったことが良かったな。

高齢者の仲間入りした彼は、今何をやっているのだろうか。貴重な年金を使って、再び山登りだ。

ある日の夕方、奥多摩の登山口 (五日市駅/東京都) で、家路を急ぐワーキングウーマンが呟いている。

『あのおじさん達、下山して、一杯飲んだようね』

『悩まないのかな。楽しそうね』

『私達、忙しいのよ。遊ぶ時間もお金もないわ』

『私達、将来年金貰えるかしら』

現役組のそんな冷たい視線、思いも理解できないわけではない。ただ、俺達は登るぞ、続けるぞ。体そのものの健康もさることながら、ポケ防止には山登りが最適…と言訳を心に秘めながら。あと 10 年くらいは登りたいね。せめて東京オリンピック位までは登るぞ。その意味を込めて、東京五輪のマークをもじったのが、下のマークだ。

東京五輪の2020年も山登りだ

振り返ってみれば、前回の東京オリンピックの時 (1964 年) は、ワングル 1 年生だった。次回東京オリンピックは、ワングル最終学年か…。



《マークにつき、少々解説》

- ① 槍ヶ岳から登る朝日 (2012 年 8 月 8 日笠ヶ岳小屋)
- ② ワングルらしく「continue wandering」にしようと思ったが、認知症の徘徊 (wander) のイメージに誤解されても困るので、やむなく「climbing」とした。

あるワンダラー Nabeshima の呟きでした。ご勘弁を。

第7幕

鍛え直してごらん 我が老体を

最高齢は合津さん。しかし肉体的には最も若い感じだ（頭脳・気力面もそうでしょう）。

頑健な合津リーダーが、花よ蝶よと育てられた貧弱な身体の新入部員を鍛えている…そんな50年前の新トレ風景を思いおこす場面が、今回の白山南竜PWにも見られた。

(1) 休憩場所

新人：《この中飯場は休憩に最適の場だ。休憩だろうな》と心の中で期待。

合津：休憩の気配、全くなし。

新人の期待は見事に裏切られ、中飯場で休むこともなく通過だ。

(2) 休憩タイミング

新人：「熱中症対策にこまめに水が必要だ」と暗に休憩を催促する声を出す。

合津：「もっと先に、良い休憩所があるぞ」休憩も逸して、その先の万才沢まで進む。

合津さんは、今なおマラソン大会（フルマラソン、ウルトラマラソン）、テント泊の南アルプス縦走、農作業…をやっていること。その所為か、いまだに若々しい。

俺も体づくりやるぞ

さて俺達も、健康寿命を一層継続するためにも、日常的に積極的に体づくりをしなければならないね。高齢者向けのラジオ体操、ストレッチ、頻繁な山歩き……。KUWVの現役時代に鍛えた財産（体力）は、サラリーマン時代に使いつくしているからね。

最長老の軽快なステップ！



第8幕

取り戻してごらん 山男の輝きを

砂防新道では、登り下りの登山者で一杯だ。狭い登山道なので、すれ違いのために道をお互いに譲り合う。

すれ違いの登山者を観察してみると

- ☆小さな子供連れ家族 ☆山ツアーグループ
- ☆山ガール達（年齢不詳）
- ☆夫婦（らしき） ☆恋人達（らしき）
- ☆九州からのおばさん二人組

逆に我がパーティもしっかり観察されているようだ。心の中では次のように感じているのかも。失礼にも、正直に声を出して言う者もいる。

- ★ウワッ、男ばかりのグループだ
- ★しかも高齢者軍団だ
- ★何のグループなのかな。不思議な人種だ
- ★ちょっと異様かもね

それにしても、山ガール（もどき）がもてはやされ、ヤマジージはなぜ拍手されないの。山男軍団は山に似合わない存在になってしまったのだろうか。輝きを失ったのだろうか。



ヤマジージ自信を持って十分に輝いているよ

わが身を省みて、変えるべきところは変えるよ。ただ、半世紀も続く山男軍団だ。どのように観察されようが、我らは楽しい山仲間。この山男仲間はこの世から消失させないよ。来年もこの《ヤマジージ》スタイルで、白山にやってくるぞ。